よい子のさくぶん

うちのおとうさん

小学二年　前川ともよ

わたしのおとうさんは、三川こうでせきたんをほるきかいのしゅうりをしています。

毎日、あさの七時二十分に会社に行きます。

わたしは、七時四十分に学校へ行きます。

学校は、かじのやけあとはもうありません。やけのこったこうしゃは、きみどりにぬってありますよ。国語も、算数も、音楽も、理科も、かきかたも、しゃかいも、たいいくも、ずこうも、べんきょうをしますよ。

学校はあそぶこともたのしいけど、べんきょうもたのしいです。

学校からかえるとしゅくだいをして、テレビをみているとおとうさんが帰ってきます。そして「べんきょうをしたね」、といいます。そしてまた、かいぎにいきます。

ときどき、おとうさんは帰りがおそいときもあります。そのひはおこられません。せーせーします。

おとうさんはバイクで二回つっこけて、にゅういんをしました。さみしかったです。もう、つっこけないでください。

お正月になると、おとうさんはおとしだまをたった百円しかやりませんでした。がっかりしました。でも、だまっておりました、おこるとこわいです。

×

ともよちゃんは、緑ケ丘小学校の二年生で、荒尾市緑ケ丘社宅小鳩町三十五棟に住んでいます。おとうさんのことがよく書けましたね。また書いてください。

×

よい子のみなさん、お父さんのことやお母さんのこと、あるいはきょうだいのことや学校、お友だちのことなどを、さくぶんに書いて「組合本部内、編集部」にどしどし寄せて下さい。学年と名まえをはっきりと忘れずに。ごほうびもあるからね。

——編集部

ともよちやんは何がおかしいのかな？

婦人見聞

クリスマスイブ

新港分会　池田スミ

主婦会新港分会では三池労組の地域分会と合同で、一昨年から幼児と小学生を対象に、クリスマスイブの行事を取り組んできましたが、昨年も十二月二十五日に行事を営みました。

子供たちはまだ準備中の闘争本部に早くから押しかけてきて、期待を顔に現わしながら、幕の開けるのを待ち兼ねていました。その顔を見た時、これはうんと楽しませてやらなければ、との思いで胸いっぱいになりました。

やがて、ショートケーキとジュースとみかんなどの贈りものを前に並んだ子供たちは、二十五、六名にもなりました。

グリーンランドの子供博の八ミリ映画の映写のあと、入れかわり立ちかわり立ってうたをうたいました。お母さんたちも子供に指名をされては、ことわることもできず、うたなどうたいました。

第二会社にご主人が働いておられるご家庭のお母さんの参加もありましたが、「後片づけくらいは手伝わせて下さい」と、働いて下さいました。

会が終ろうとする頃のことでした、中学生の二人の子供から「おじちゃん、おばちゃん、これまで林間学校やクリスマスイブなど、ほんとうに楽しい思い出をつくって下さいまして有難度うございました。中学生になりますから、最後のお礼をいわせて下さい」、と感謝の言葉をうけましたが、その心の美しさに思わずジーンとしたものです。

子供たちよ、ありがとう。この子供たちがこのまま伸び伸びと育ち行くために、私たちは今年も家族ぐるみで頑張らなければ、としみじみ思いました。

×

こんな話題を、主婦会員の皆さん、今年もどうぞ本欄にお寄せ下さるようお願いします。

編集部

大会めざして

方針の成案化へ

三池主婦会

三池主婦会はきたる二十二日に第二十四回定期大会を前に、運動方針の成案化をいそいでいます。十日に開いた中央分会長会議でその骨子が承認され、大会を待つばかりとなりましたが、その骨子は「生活を守る運動」から始まる次のような柱からできています。

▼生活を守る運動。
▼生命、健康を守る反合闘争。
▼統一活動。
▼生協活動。
▼重税反対・社会保障拡充。
▼子供を守る運動。
▼組織を強める活動。
▼働く婦人の問題追求。
▼平和を守る運動。

周知のように、宮浦鉱が三川鉱に合併されたことから、支部の機構改革などをめざす規約の改正も避けられませんが、今後より組織の強化をはかってまいります。主婦会員皆さんの、いっそう積極的な運動への参加をお願いします。

詩歌集制作の記

三川指導部　町　佳郎

秋立ちて小菊のあまた咲きたれば手（た）折り供えて吾が観世音菩薩

奄美の歌聞けば切なし亡き父母の遠き故里頭ちくるごとし

妻子（めこ）を抱きひそかに伝い来るは何和みゆく日々に涙湧きくる

去年の暮れ、同じ指導部の月野貞信君と共同で、ささやかな詩歌集を作った。詩は月野君で、短歌は私である。異なるジャンルを越えて、そこに何かを求めたい、という二人の願いは、数ケ月を経てようやく実現された。

詩歌集制作の誘いを月野君から受けたのは、夏の頃であった。そのことが突然のことだったので、当時はかなりとまどいを感じた。うたの道に入ってそう長くはない私にとっては、歌集を出すなどとは思ってもいなかったからである。そのことが実現に向けて歩き出したとき、私はもうあとへは戻れない重い責任を背負ったような気持がした。

しかし七月の末、私は会社帰りに思わぬ交通事故に遇い、二ケ月程の療養をよぎなくされた。十月に入って現場復帰したが、時折り襲う頭痛は、いやおうなく私を苦しめた。しかし月野君の詩歌集制作への熱い気持を知ったとき、頭痛に耐えてでも、これまで待ってくれた彼に対して、その思いに答えねばならないと思った。新たな意欲が私の心をかきたてるようだった。

そのご二人の共同作業は続き、十二月の末にやっと完成を見た。小高く積まれた詩歌集を見つめながら、チャンポンでお互いの労をねぎらい合った。それは一つの事を成し遂げた喜びでもあった。

不十分な点は多々あろうが、これを一つの区切りとして、尚一層の精進につとめたいと思う。皆様の率直な感想、意見を仰ぎたいと思う。

積まれたる詩歌集かたえに師走夜を汁物すすりつつ友と笑み合う

お飾りの葉みかん

三川指導部　平田　光男

葉みかんを
お飾りモチに乗せると
二日となかった
幼なかった二人の子供達が
食べて回っていたから
仕方なく、親として
庭に黄色く実っている
キンカンの実をちぎってきて
そっとお飾りモチの上に乗せて
回る
それは
毎年の私の役目だった

妻に
「俺たちが結婚して二十年になるぞ。今年は俺の年。午どしだ」
といったら
「あら、そうね。そうなるとね。その割には、うちば大切にせんね」
グー

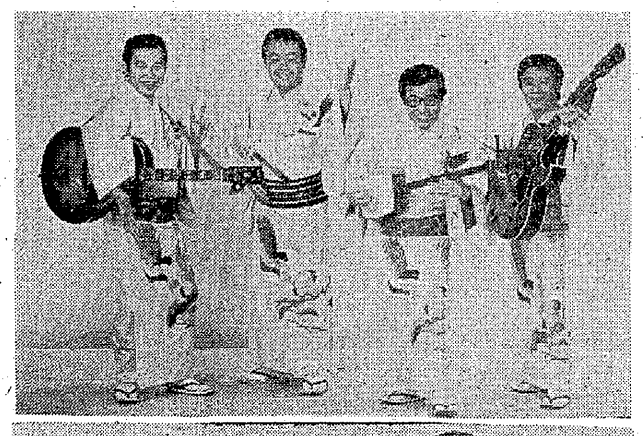
子供達は
今年はも早や葉みかんを
食べて回らなくなった
が
反抗精神の方は
はげしさを増してきた

誰もがもう手をつけない
葉みかん
新しい年の光のしずくが
その肌から滴り落ちている

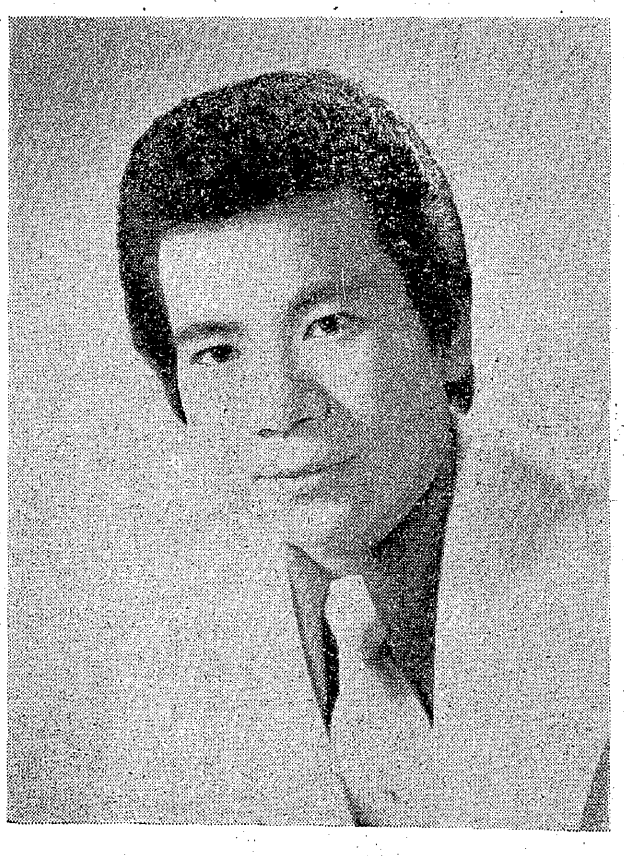
大川栄策ほか家族慰安会に

懸案の家族慰安会が、二月五日に大牟田市民会館で催される。今年の舞台に来演するのはコロンビア専属歌手・大川栄策を柱に同じ歌手の古都清乃（ビクター）玉川カルテット、ちゃっきり娘など。

すでに組合は、ビラを配って、「今回の文化慰安会も、春闘を前に英気を養うための一環として取り組みますので、家族ぐるみでぜひ参加して下さい」、と呼びかけている。



写真上が玉川カルテット、同じく下がちやつきり娘



大川栄策